

町の NEWS わだいの

身近な情報をお寄せください

総務課行政係 ☎74-3132

✉gyousei@town.kanra.lg.jp

花 ippaiのまちづくり 地域ボランティア活動

町内各所で色鮮やかに咲く花は、多くの町民の皆さんの手によって育てられ、町民や町を訪れる人の目を楽しませてくれています。地域ボランティア活動の一環として、今年度町のフラワープラン推進事業やプランター設置事業を活用して花を植栽し、環境整備に取り組んでいる団体を紹介します。

第20-1区



20-1区(横山兼治区長)は5月上旬、福島地内の県道沿いにマリーゴールドを150ポット植え付けました。区独自でも花の植栽活動に取り組み、年間を通して区民が交代で除草作業などを行っています。

第21区



21区(三木純一区長)は10月中旬、白倉地内の県道沿いにシバザクラを880ポット植え付けました。これまで役員などで除草・管理を実施してきましたが、今後は区民総出で活動していく予定です。

商工会女性部



町商工会女性部(新井鳴美部長・部員28人)は11月12日、11人が参加してナデシコやキンギョソウ、シクラメンなどの寄せ植えを行い、上信電鉄の上州福島駅と上州新屋駅に届けました。

生活改善グループ連絡協議会



町生活改善グループ連絡協議会(吉田由香里会長・会員23人)は12月17日、14人が参加して町内施設に設置しているプランターに花の植え替え作業を行い、7カ所に届けました。

三木さんの100歳を慶祝

三木八重子さん（金井・大正10年11月27日生まれ）が100歳の誕生日を迎えられ、慶祝状と祝金を贈呈しました。

三木さんは吉井町のお生まれで金井に嫁ぎ、子ども3人に恵まれました。和裁を趣味にしながら、養蚕と稲作を中心に農業に励まれ、昨年秋まで自宅で生活していました。

現在は富岡市内の病院に入院していますが、テレビの相撲観戦を楽しみに過ごし、食事は好き嫌いなく食べ、特にどら焼きやプリン、いちごなど甘い物が大好きです。



江原さんの100歳を慶祝

江原きよみさん（白倉・大正10年12月10日生まれ）が100歳の誕生日を迎えられ、12月10日に茂原町長が自宅を訪問し、慶祝状と祝金を贈呈しました。

江原さんは富岡市のお生まれで白倉に嫁ぎ、子ども3人、孫7人、ひ孫15人に恵まれました。90代まで畑仕事に励まれ、今でもよく体を動かしています。

長寿の秘訣は「何でもよく食べること」。特に自家製の採れたて野菜は好んでよく食べ、新聞を毎日読んで、穏やかに過ごされています。

みんなで作りあげた 保育園おゆうぎ会



かんら保育園のおゆうぎ会が12月11日に町文化会館で開かれ、年少・年中・年長児120人がこの日のために一生懸命練習してきた遊戯などを保護者の前で披露しました。

昨年と同様に、密を避けるため時間を分けて発表を行い、手作りの衣装で元気に演じる愛らしい姿に、会場からは大きな拍手が送られました。



「ふしぎの国のアリス」(年長・ぞう組)



「オズの魔法使い」(年長・きりん組)

瑞宝双光章を受章 相川さん

第37回危険業務従事者叙勲が11月3日付けで発令され、元陸上自衛隊1等陸尉の相川弘樹さん(小川)が防衛功労で瑞宝双光章を受章しました。

相川さんは、自衛官として36年半にわたり勤務され、東日本大震災などの災害派遣や人命救助など、国民の安全を守るために尽力されました。

相川さんは「今回の受章は、妻をはじめ家族の理解や支えがあり、地域の皆さんの協力もあったからこそと深く感謝しています。この章に恥じぬように自覚を持ち、少しでも恩返ししていきたいです」と話されました。



人権ポスターコンテストで入賞



左から 桑原さん、中山さん、中野さん

人権について理解を深めるための第18回「人権ポスターコンテスト」(富岡人権擁護委員協議会・前橋地方務局富岡支局主催)が開かれ、甘楽郡・富岡市・上野村の小学5年生を対象に516点の応募がありました。

12月4日に富岡市生涯学習センターで入賞者の表彰式が行われ、作品も展示されました。

町の入賞者は次のとおりです。

- ◇サファリ社長賞 桑原歩翔さん(小幡小)
- ◇甘楽町長賞 中山梓杏さん(新屋小)
- ◇甘楽町教育長賞 中野 栞さん(小幡小)

グラウンドゴルフで交流 小幡地区生涯学習推進協議会

小幡地区生涯学習推進協議会(白石豊樹会長)は12月4日、総合公園Bグラウンドで小幡地区グラウンドゴルフ大会を開きました。

2年ぶりの開催に11チーム、役員含め78人が参加し、競技を楽しみながら親睦を深めました。

優勝は「第二慶寿会A」でした。同会の柳澤清次会長(善慶寺)は「久しぶりの大会に全員マスクをして、各チームとも歓喜にあふれる楽しい大会になりました。開催していただいた関係者の皆さんに深く感謝しています」と話されました。



晴天に恵まれ元気にプレーする参加者の皆さん

お おきくなあれ！しいたけ栽培

町学校給食センターでは、11月にしいたけの「ほだ木」と「菌床」を希望する町内の保育園・幼稚園・小中学校へ配布しました。

これは、群馬県が子どもたちのきのこへの関心を高め、家庭での消費拡大を図ることを目的とした「きのこ安全・安心キャンペーン」により実施したものです。

しいたけ(ほだ木)生産者の田村さんご夫妻



子どもたちはしいたけの成長を身近で観察し、霧吹きなどで世話をしたり、収穫をして楽

しみました。また、生産者の田村悠一さん(国峰)ご夫妻の協力による映像も視聴し、どんな木にしいたけが発生するのか、どのくらいで収穫できるのかなどを学びました。

10・11月の学校給食には、県きのこ振興協議会から提供されたきのこ食材が使用されました。



「おおきくなあれ」と声を掛けて世話をする園児たち

いじめ防止子ども会議開催

～ネット社会の中で
よりよく生きるには～

「互いに支え合う人間関係をつくるために、私たちにできること」

甘楽町いじめ防止子ども会議が12月7日、新屋小学校体育館で開かれました。

代表児童生徒27人が各学校の取り組みを発表し、小学校4年生以上の児童と甘楽中学校の全生徒がオンラインで配信された映像を視聴しました。その後、各校の代表は班別で意見交換を行い、班ごとにSNSによるトラブルやいじめを防ぐためのスローガンを作成しました。スローガンは各学校の校内に掲示し、啓発していきます。



代表児童生徒による発表(写真は福島小学校)



活発な意見が出された班別協議

スローガン

- ① 考えよう SNSの あるべき姿
- ② S(そ)うだんしよう N(な)かまと築く S(し)あわせを
- ③ 仲間をつくる 笑顔あふれる SNS
- ④ (ス)救われる (マ)魔法の言葉 (ホ)放出しよう

令和3年度甘楽町いじめ防止啓発標語コンクール優秀作品(敬称略)

『なやみごと ぼくでよければ きくからね』 齋藤 旭(小幡小5年)

『そのイジリ 私にとっては いじめだよ』 松本結乃(福島小6年)

『不思議だね ネットも言葉も上手につかえば 楽しくなる魔法だよ』

新井理仁(新屋小6年)

『差別なく みんなに向ける 救いの手』

石黒紬愛(甘楽中1年)

輝く甘楽中生！関東大会・県大会で活躍

関東大会で健闘！駅伝部

第30回関東中学校駅伝競走大会が12月5日に栃木県那須野が原公園特設周回コース(男子6区間18.01km、女子5区間13.101km)で開かれ、甘楽中学校男子・女子駅伝部が出場しました。

1都7県を代表する男女各33の強豪校が集まった大会で、選手は仲間とともに積み重ねてきた練習の成果を発揮し、男子10位(57分10秒)、女子13位(46分45秒)と健闘しました。

大会前の2日には出場報告会が町公民館で開かれ(右写真)、一人一人が力強い決意を述べました。



前列左から 森平副町長、見友勝久校長、茂木煌気さん(3年)、茂原町長、落合優希奈さん(3年)、佐俣樹範教諭、近藤教育長
中列左から 黒澤 碧さん(2年)、三木陽太さん(3年)、佐藤杏音さん(3年)、谷川航太さん(3年)、諏訪沙枝さん(2年)、飯塚亜文さん(3年)、吉田清花さん(2年)
後列左から 吉田 惇さん(3年)、外所加帆さん(1年)、長岡優真士さん(3年)、吉岡咲茅さん(2年)、清水翔和さん(2年)、佐野天音さん(2年)、高橋 歩さん(3年)

～ 関東大会での力走 ～



男子2区・茂木さん



男子3区・高橋さん



男子5区・三木さん



男子6区・飯塚さん



女子1区・落合さん



女子4区・佐藤さん

区間賞獲得！谷川さん・諏訪さん

男子1区の谷川航太さんと女子5区の諏訪沙枝さんは、それぞれ見事区間賞を獲得しました。



谷川さん

「区間賞を狙っていたので有言実行し、結果を出せてよかったです。感謝の気持ちを忘れずにこれからも走り続けます。」



諏訪さん

「みんなの声援を聞いて頑張ることができ、区間賞をとれてうれしいです。次は全国大会に行けるよう頑張りたいです。」

全日本少年春季軟式野球大会県予選会で第3位！野球部

第13回全日本少年春季軟式野球大会日本生命トーナメント群馬県予選会が11月20日から12月4日まで、渋川市赤城総合運動自然公園野球場ほかで行われました。

甘楽中野球部(大類亨介部長・部員15人・右写真)は、地区大会を勝ち抜いたチームと白熱した戦いを繰り広げました。粘り強い野球で少ないチャンスをものにして、優勝こそ逃しましたが、大健闘の3位となりました。

大類部長

「どのチームにも負けない声の大きさを武器にベスト4になることができました。春夏の連覇を目指しチーム一丸となって突き進んでいきます。」



人権作文



第40回全国中学生人権作文コンテスト群馬県大会で、町田のはらさん(2年・写真左)の「いつか平等になるように」が群馬テレビ賞、吉田寛菜さん(3年・写真右)の「噂がもたらすもの」が奨励賞を受賞しました。

町田さん

「性別よりも個性が尊重される社会であってほしいという思いを作文にしました。」

吉田さん

「コロナ禍の心ない噂に疑問を感じ、作文を書きました。人権について考えるいい機会になりました。」

税についての作文

第45回群馬県中学生の税についての作文コンクールで、岩井唯花さん(3年)の「税と生きる」が県納税



貯蓄組合連合会長賞銅賞を受賞しました。

岩井さん

「ニカラグアの貧困問題について考えることで、税の必要性和重要性を改めて実感できました。」

父の日大会作文

第64回群馬県父の日大会の作文で、加藤颯真さん(3年)の「おとうさんありがとう」が優秀賞を受賞しました。



加藤さん

「尊敬する父への日頃の感謝の気持ちを言葉で伝える機会がなかったのですが、作文を通して伝えることができました。」